

---

## 経験的にみた病院防災マニュアル作成

(佐藤和美：災害時のヘルスプロモーション、東京、荘道社、2010、40-48)

2014年8月1日、災害医学抄読会 <http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/>

---

### 1. 災害への備えと減災について

大規模な自然災害に対して、施設の本来の役割に加え災害時における地域の病院としての役割を理解し、職員と患者・家族の安全確保を最優先しながら患者の継続医療のニーズと災害医療という新たなニーズへの対応をしていくことは医療従事者の重要な責務である。

では、災害の予防被害の軽減を図ることにより被災者などへの最大限の医療の提供をするにはどうしたらいいか？その手段としては、マニュアルの作成とその訓練が重要である。職員が「災害は起こるものである」という、共通認識のもと、組織的に対処するための基準を設け、その内容を理解し知識として身につけたうえで訓練を体験しておくことで災害への知識と備えをすすめることが必要。

### 2. 災害時に対応できるマニュアルの考え方

マニュアルを考えるうえで、まず前提としてマニュアルの背景には2つの立場がある。

#### ■ 第一の立場

自身も被災者でありながら被災地で医療従事者として活動する立場

#### ■ 第二の立場

自身とその家族は被災していないが、災害支援活動者として活動する立場

### 災害マニュアルの4つの視点

上記2つの立場を踏まえたうえで以下の4つの視点からマニュアルを整備することも一つの方法。

#### ①備えとしての対策

##### a)平時の予防・減災

管理者と現場が連動して、組織的に患者や職員などの安全確保および医療活動の維持機能を管理するためのマニュアルを作成し、責任者とその役割を明確にしておく。またマニュアルの見直しと設備などの定期的な点検や備蓄が必要。

##### b)災害教育

「災害はおこるもの」という認識と「災害について知ること」が基本。マニュアルに基づいた訓練や災害教育で得た知識が多いほど緊急時の冷静な行動に結びつく。そのため、その施設の方針に合ったものを研修プログラム化し全職員の啓発に努める必要がある。

##### c)防災訓練

防災訓練は、あらゆる状況を想定しながら課題を設定し常に緊張感をもたせるように工夫することが大切。この訓練体験が迅速かつ正しい救援活動につながる。

## ② 災害発生時の対策（被害拡大の防止との安全確保）

災害対策本部の設置；病院内のどこに設置されるのかを明確にしておき指示命令機能を持つ災害対策本部を早急に設置する。その際、平時の組織体制か災害時の組織体制かを明確にし各部署との円滑な連携による情報の伝達・収集・発信を可能にする。

また組織内の各部門ごとの役割と基本対応を明確にしておく。

## ③ 救護対策（多数発生した傷病者への対応）

傷病者の受け入れのため、人員を確保し医療救護体制の準備や入院患者対応と管理の準備などにあたる。医療救護班については、構成,教育,管理などの対策をしておく必要がある。

## ④ 後方支援対策（被災地支援）

医療救護班の派遣、支援物資の提供のおもに2つ。そのために人員確保や被災地に関する情報収集、機材や物資の準備などを行う。